

平成28年度 生活科教育の現状と課題

部長 小嶋 美江子

1 各地区における現状

(1) 教材研修・実技(体験)研修

…教師自身が、地区を散策したり、自然に触れたりすることが、子どもの思いや気付きの予測、より興味関心を高めるような活動プランの作成のために重要であることを学ぶことができた。

○地域にある自然環境、施設等を散策し、豊かな自然、地域独自の草木や花と直にふれ合うことで、驚きや新たな発見、気付きを生む体験の重要性を学んだ。

○水辺の生き物を実際に採集し、捕まえ方や飼育のポイントを学んだ。

○学校周辺で採集した植物でしおりを作ったり、木ぎれや枝で動物の飾り物を作ったりして、身近な素材で低学年にもできる簡単な創作活動の可能性を探ることができた。

○校庭や身の回りにある植物を使った遊びや、食べられる植物、毒がある植物、とげやかぶれに注意する植物について研修した。

○おもちゃ作りを通して、気付きを高める制作時の工夫、遊び方の工夫について学んだ。

○アサガオのたたき染めでうちわを作ったり、タマネギの皮や紅茶で草木染めをしたり、サツマイモのおやつを作りなど実技研修は、活動の幅を広げる新たな視点を得た。

(2) 授業研究・講話・講演・実践紹介

…授業公開では、教材や体験活動の工夫が、子どもの気付きや思考、追求の姿を大きく変えることを実感できた。協議会や指導者のご指導から、今後の授業改善の新たな方向や視点を学んだ。講話・講演からは、「アクティブ・ラーニング」や「社会に開かれた教育課程」「カリキュラムマネジメント」など、次期学習指導要領の方向、今後の生活科教育のあり方について学ぶことができた。

○明確な学習課題を設定することが、「友達と比べる」「教え合う」活動の充実、子どもの思考の広がり、一人一人の明確な見通しをもった活動につながっていく。また、単元導入時に、「素材遊び」をたっぷりと時間をかけて行うなど「活動の保障」や「環境作り」が子どもの意欲を高め、活動への集中力を高める。

○深い学びを実現するためには、「学びのストーリーの創造」「評価計画の作成と活用」「子どもの学びを見取ること」が重要であることを学んだ。

○「自分がかかわることや自分にとって意味があること」が重要であり、「他者のため」だけの活動ではなく、「他者との関係」で生まれる自己意識を大切にしていく。「〇〇のためにやっていたことが自分のためになっている」という気付きを大切にしながら指導していく。

2 各地区の抱える課題

○子どもが興味関心を高め、楽しく取り組める教材研究・教材開発

○子どもが主体的に学ぶための手立ての工夫、目的意識・相手意識のもたせ方、焦点化した話し合いの工夫

○目の前の子どもや地域の状況に合わせたカリキュラム作成、マネジメント能力の獲得